

## 「大学・まち・学生 むすぶプラン」の中間総括

## 1 プラン全体の進捗状況 ※ 個別施策の27年度進捗状況については資料2参照。

施策数（全体）	27年度までに実施済みまたは着手済み	28年度実施または着手	検討中（未着手）
87	84	2 ※1	1 ※2

※1 2ーリ(3)ーウ「大学の留学プログラム実施に係る支援策の検討」:「京グローバル大学」促進事業

4ーリ(2)ーエ「京都の大学に設置された社会連携センター、地域連携センターなどのネットワークづくり、大学と地域とを繋ぐマッチング・コーディネートの仕組みづくり」:「学まち連携大学」促進事業（大学・地域連携サミット「学×地リンク」）

※2 1ー推(2)ー②「学生の意見吸収システムの構築」

## 2 大学・学生を取り巻く状況

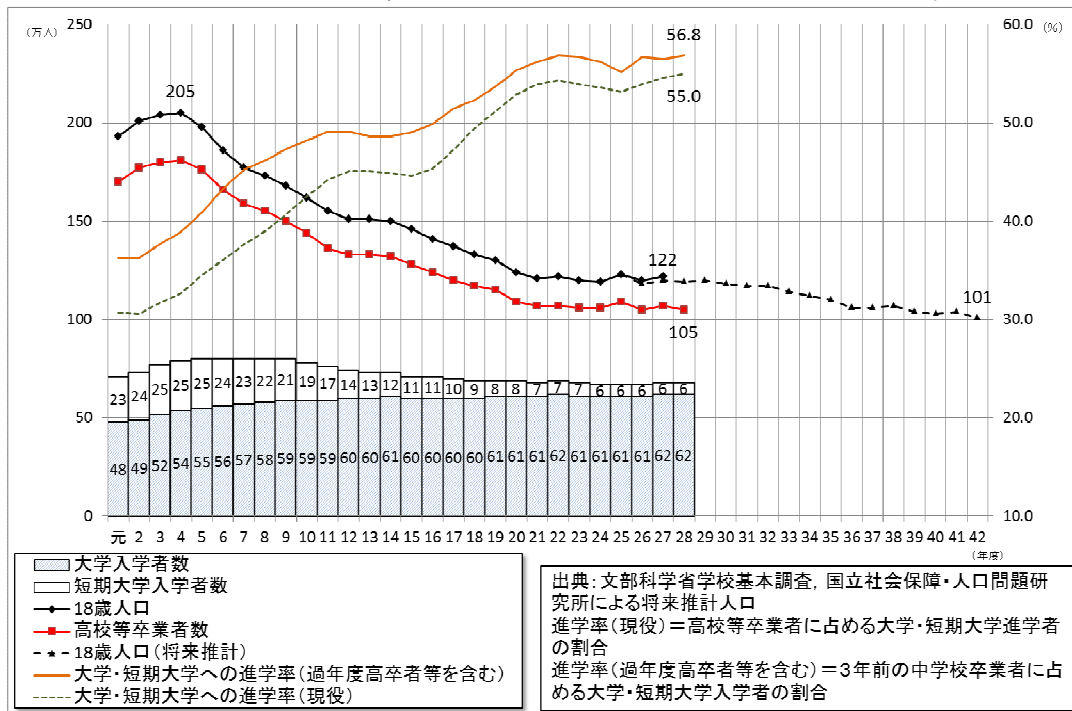
## (1) 全国における大学の状況

ア 18歳人口は長期的に減少傾向

学生数のベースとなる18歳人口は、平成4年の205万人をピークとして減少し、平成27年には122万人となっている。ここ数年、減少幅は緩やかになっているが、平成30年以降、再び減少傾向が強まると推計されている（2018年問題）。

イ 進学率は上昇してきたが、近年は横ばい傾向

平成28年の進学率（過年度卒を含む）は56.8%となっている。ここ5年間ほどは横ばい傾向となっており、今後の進学率の動向は不透明である。



ウ 定員割れ

大学・短期大学数は減少傾向にあるが、定員割れしている私立大学・短期大学の割合は、平成28年8月の調査で四年制大学44.5%（前年43.2%）、短期大学66.9%（前年61.0%）となっており、大学を取り巻く環境は依然厳しい。

○ 定員を充足していない学校の割合（私立）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
大学	39.0%	45.8%	40.3%	45.8%	43.2%	44.5%
短期大学	66.6%	69.7%	61.0%	64.7%	61.0%	66.9%

日本私立学校振興・共催事業団（H28年度私立大学・短期大学等入学志願動向）28年8月

(2) 大学・短期大学数、学生数の推移（全国・京都市）

ア 全国

長期的には、18歳人口が減少してきた一方で進学率が上昇したため、学生数の減少は緩やか。学校数は、四年制大学は横ばいだが短期大学が減少しているため、減少傾向。

イ 京都市

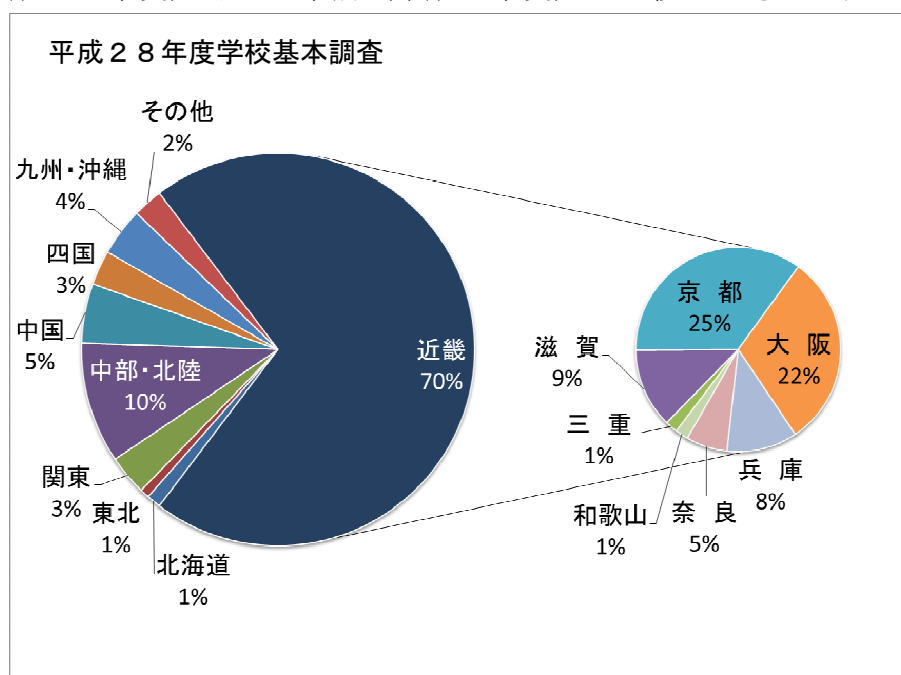
市内でのキャンパス整備などの影響により、学生数は増加傾向。学校数は横ばい。

年 度	全国						京都市					
	学校数			学生数			学校数			学生数		
	大 学	短 大	計	大 学	短 大	計	大 学	短 大	計	大 学	短 大	計
5	534	595	1,129	2,389,648	530,294	2,919,942	22	15	37	122,463	14,066	136,529
10	604	588	1,192	2,668,086	416,825	3,084,911	22	15	37	121,578	13,580	135,158
15	702	525	1,227	2,803,980	250,062	3,054,042	23	13	36	130,117	8,006	138,123
20	765	417	1,182	2,836,127	172,726	3,008,853	25	12	37	132,897	5,612	138,509
21	773	406	1,179	2,845,908	160,976	3,006,884	25	12	37	134,076	5,161	139,237
22	778	395	1,173	2,887,414	155,273	3,042,687	25	12	37	135,239	4,777	140,016
23	780	387	1,167	2,893,489	150,007	3,043,496	26	12	38	135,177	4,093	139,270
24	783	372	1,155	2,876,134	141,970	3,018,104	26	12	38	136,043	3,456	139,499
25	782	359	1,141	2,868,872	138,260	3,007,132	26	12	38	143,172	3,356	146,528
26	781	352	1,133	2,855,529	136,534	2,992,063	27	11	38	143,146	3,587	146,733
27	779	346	1,125	2,860,210	132,681	2,992,891	28	10	38	141,949	3,418	145,367
28	777	341	1,118	2,873,624	128,460	3,002,084	28	10	38	143,990	3,147	147,137

※ 文部科学省学校基本調査及び京都市調査。市内学校数は本部所在地，市内学生数は学部等の所在地による。

(3) 京都府内の大学・短大入学者（出身高校の所在地別）

近畿地方出身者が7割を占め、次いで中部・北陸地方10%，中国地方5%。10年前（平成18年度）や20年前（平成8年度）と比較してもほぼ同じ傾向を示している。

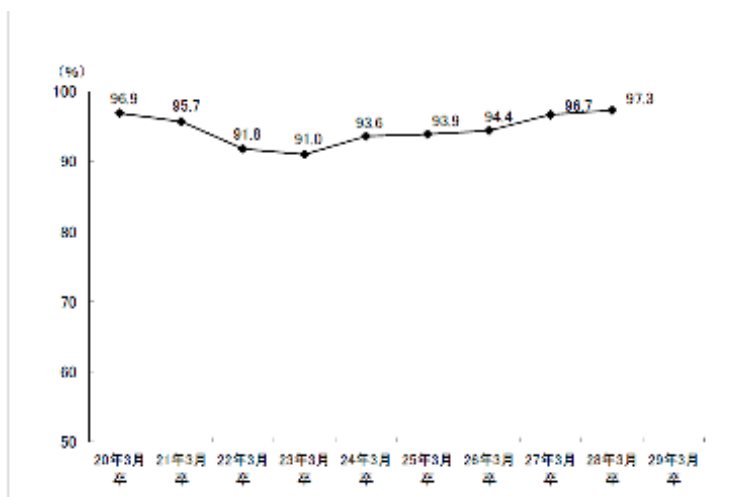


#### (4) 雇用情勢

リーマンショック後の就職氷河期から、全国の就職内定率は年々上昇している。

平成28年11月の京都府の有効求人倍率は1.36倍で、43年ぶりの高水準となっており、人手不足が深刻化している。全国的な調査では、従業員規模が小さいほど大卒の求人倍率は高く、中小企業の担い手確保が課題となっている。

大学等卒業予定者の就職状況調査（厚生労働省。各年4月1日現在）



### 3 「大学・まち・学生 むすぶプラン」策定以後の京都市政の動き

#### (1) 「まち・ひと・しごと・こころ」京都創生総合戦略を策定

国においては、平成26年12月に閣議決定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、地方の若い世代が大学等の入学時と卒業時に東京圏へ流出していることへの対策として、「地方大学等の活性化」を掲げている。この戦略では、「地の拠点としての地方大学強化プラン」「地元学生定着促進プラン」「地域人材育成プラン」の推進を目指す「地方大学等創生5か年戦略」が示されており、地方大学等において地域とのつながりを深め、地域産業を担う人材養成など地方課題の解決に貢献する取組を促進すること、地方大学等への進学、地元企業への就職を促進することとされている。また、平成28年12月22日に閣議決定された総合戦略の改訂版においては、東京における大学の新增設の抑制や地方移転の促進などについての緊急かつ抜本的な対策の方向性を、平成29年夏を目途に取りまとめることが盛り込まれた。

京都市においては、平成27年9月に策定した「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略において、5つの基本目標の1つとして「国内外から訪れ、学び、住み、交流する新たな人の流れをつくる」ことを掲げ、「大学のまち・学生のまち」の強みを活かし、学びの環境を充実するとともに、住民自治の伝統が息づく地域の活動に関わったり、ほんものの文化に触れ、学び、身につけるなど、学生や留学生の交流の機会を拡充することとしている。

#### (2) 留学生スタディ京都ネットワークの設立

留学生誘致については、平成20年に策定した「京都市国際化推進プラン」において、平成19年当時、4,513人であった留学生数を10年間で倍増させ、平成29年度までに「留学生1万人」とする目標を掲げるとともに、平成21年の「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」においても、留学生の誘致・支援を推進施策として位置付け、以降、各大学において、海外での留学フェアへの参加をはじめ、留学生誘致に向けた取組を強化してきた。

しかし、グローバル化の進展に伴い、世界的な留学生の獲得競争が激化する中、留学生誘致をこれまで以上に加速・拡大していくためには、各大学の取組に加えて、京都の関係者が一丸となって、更なる新しい展開をしていくことが求められている。

こうした中、大学、日本語学校、専修学校、経済界、京都市、京都府が参画し、平成27年5月、「留学生スタディ京都ネットワーク」を設立し、オール京都体制での留学生誘致・支援をスタートさせるとともに、平成27年9月に策定した「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略において、平成32年までの「留学生1万5千人」という新たな目標を掲げた。

#### (3) 文化庁の京都への全面的な移転が決定

平成28年3月、国の政府関係機関移転基本方針が発表され、文化庁の京都への全面的な移転が決定した。国では、GDP600兆円を目標に掲げ、一億総活躍社会の実現に取り組むとともに、地方創生の一層の推進を図っている中、文化芸術、町並み、地域の歴史等の「文化」を起爆剤として、地域の特色に応じた取組を展開し、交流人口の増加や移住につなげるとともに、文化を産業として活性化させ、文化でGDPの拡大を目指す取組の一層の充実が求められている。

平成29年度から文化庁の先行移転として設置される地域文化創生本部（仮称）と連携し、京都市としても、大学をはじめ、教育、子育て、健康長寿、ものづくり、伝統産業、観光、経済など、あらゆるまちづくりを文化と融合し、京都が文化の力で全国の地方創生を牽引し、全国の方々に京都をモデルの一つとしていただけるような、文化で日本を元気にする取組を推進していく必要がある。

## 4 プランの中間総括

### 柱1 学生が学ぶ環境の充実

#### まちの将来像：京都で学ぶ魅力を実感できるまち

山紫水明の落ち着いた自然，千年を超える歴史，そこから生まれた文化芸術，伝統と進取の気風が融合する産業，そして個性にあふれた多様な大学の集積のもと，わが国の大学教育・研究をリードし，大学間連携の蓄積に培われた学びの機会と，安心して安全な学び・暮らしの環境を提供するまちを目指します。

#### リーディング施策

(1)「量から質へ」単位互換科目の魅力の向上 コンソーシアム

(2)「景観と機能の調和」大学施設整備の支援 京都市

#### 推進施策

(1)「安心して安全に学べる京都」の充実 京都市

(2) 学生が京都とふれあい，協働する環境づくり 京都市 コンソーシアム

(3) 大学経営・運営の支援 京都市 コンソーシアム

(4) 多様な大学・学生活動拠点の活用・設置の促進 京都市

#### 平成28年度までの進捗状況及び今後の展望

施策数	27年度までに実施済みまたは着手済み	28年度実施または着手	検討中（未着手）
19	18	0	1 ※

※ 1－推(2)－②「学生の意見吸収システムの構築」

- ① 単位互換科目については，量から質への転換を図るため，科目の特色化，科目内容・到達度に関する点検評価機能の構築などに取り組み，平成27年度から，京都ならではの魅力ある科目として「京都世界遺産PBL科目」を提供している。
- ② また，大学施設整備支援については，建築関係等の技術的な助言や各種手続に係る関係者との調整，市有財産や国有地等の土地情報等の提供等に積極的に取り組むとともに，「京都市大学施設整備支援・誘導のためのガイドプラン」の要点をわかりやすくまとめた，施設整備の企画構想に関わる理事者層，事務担当者を対象としたリーフレットを作成し，施設整備の早期相談を促している。
- ③ この他，「京都府大学安全・安心推進協議会」（平成25年9月設立）や「京都ブラックバイト対策協議会」（平成28年3月設立）などの取組により「安心して安全に学べる京都」を推進するとともに，平成26年度から「京都・和の文化体験の日」を実施するなど，学生が京都の魅力にふれる機会の充実を図った。
- ④ さらに，京都市と各大学との連携，大学間の連携を一層深めるため，大学コンソーシアム京都加盟校の学長と京都市長との懇談会「大学のまち・京都サマーミーティング」を平成27年度から毎年開催している（テーマ：27年度地域連携，28年度大学間連携）。
- ⑤ 平成30年以降，18歳人口の更なる減少により各大学をとりまく状況が一層厳しくなることが予想される中，大学コンソーシアム京都を中心に大学間連携により学びの環境を向上させてきた京都の強みを最大限に活かしていくことが求められる。引き続き，国の動向も注視しながら，単位互換科目をはじめとする京都ならではの学びの魅力の向上に努めるとともに，学生が安心・安全に学ぶ環境の充実に取り組んでいく必要がある。

## 柱2 大学・学生の国際化の促進

### まちの将来像：グローバルな視野を持った人財が集い、育つまち

世界中の学生・研究者が集い、訪れた学生・研究者が優れた教育研究環境のもと切磋琢磨し、地域とのふれあいや多文化交流を通じて充実した大学・研究生活を過ごすことで、京都を愛し、将来にわたって京都で、そして世界と京都を結んで活躍する人財が育つまちを目指します。また、海外からの留学生・研究者との交流や海外留学などを通じて、このまちで学ぶ学生が、グローバルな視野を持った人財として育つまちを目指します。

### リーディング施策

- (1)「京都を知ろう」留学生誘致に向けた海外への広報 京都市 コンソーシアム
- (2)「京都に触れよう」大学のまち京都の魅力を体感できる短期留学受入の実施 京都市 コンソーシアム
- (3)「世界を見よう」京都で学ぶ学生の海外留学派遣の強化 京都市 コンソーシアム

### 推進施策

- (1) 留学生支援機能の強化 京都市
- (2) 留学生などに住み良いまちづくり 京都市 コンソーシアム
- (3) 留学生の進路・社会進出の支援 京都市 コンソーシアム
- (4) 大学職員の国際化の支援 コンソーシアム
- (5) 海外との学術教育研究の交流促進 京都市 コンソーシアム

### 平成28年度までの進捗状況及び今後の展望

施策数	27年度までに実施済みまたは着手済み	28年度実施または着手	検討中（未着手）
18	17	1※	0

※ 2ーリ(3)ーウ「大学の留学プログラム実施に係る支援策の検討」：「京グローバル大学」促進事業

- ① 平成27年5月にオール京都で留学生誘致や支援に取り組むため、大学、専修学校、日本語学校、経済界、京都市、京都府が参画して「留学生スタディ京都ネットワーク」を設立し、7言語に対応した京都留学総合ポータルサイトの運営や、海外での「京都留学フェア」の開催、京都で学ぶ現役留学生から成る「留学生PRチーム」によるソーシャルメディアの活用などにより、京都留学の魅力や情報を発信し、「大学のまち・京都」のプロモーション活動に積極的に取り組んでいる。さらに、平成28年度には、同ネットワークの取組を一層充実させ、新たに留学生向け有給インターンシップの実施や留学生のための住宅情報サイトの創設に取り組むなど、様々な支援策を展開している。
- ② また、平成27年度から、日本への留学に関心のある海外の学生に、京都に来てもらい、魅力を理解してもらうことで京都への留学につなげる取組として、多様な大学による特色ある講義と京都体験、日本人学生との交流を組み合わせた2週間の受入プログラムを年2回（夏季・冬季）実施している。
- ③ さらに、留学生誘致をはじめ、日本人学生の海外留学派遣や交換留学にもつながる海外大学との提携など、各大学の国際化の取組を支援する「京（みやこ）グローバル大学」促進事業を平成28年度に創設し、大学と連携した事業の充実も図っている。
- ④ 今後、「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略に掲げた平成32年度までの「留学生1万5千人」という目標の達成に向け、京都での就職を目指す留学生への支援を強化するなど、より総合的な施策を推進していく必要がある。

### 柱3 学生の進路・社会進出の支援

#### まちの将来像：京都で学んだ学生が生き生きと活躍するまち

キャリア教育や企業との出会い・交流を通じて卒業後の進路を自ら選択し、目標に向かって努力し、社会で生き生きと活躍できるよう、しっかりとした職業観や自立意識を持った学生を育むまちを目指します。また、京都企業や地域で活躍できる仕組みをつくることにより、京都を愛する学生が活躍するチャンスにあふれたまちを目指します。

#### リーディング施策

(1)「未来の京都を担う」京都企業と連携した人財育成 京都市

(2)「京都で働く」京都企業と学生のマッチングの促進 京都市

#### 推進施策

(1) 大学卒業後の多様な選択肢を描ける人財育成の推進 京都市 コンソーシアム

(2) ニーズに対応した就業マッチングの促進 京都市

(3) 進路カバーアップの推進 京都市

#### 平成28年度までの進捗状況及び今後の展望

施策数	27年度までに実施済みまたは着手済み	28年度実施または着手	検討中（未着手）
10	10	0	0

- ① 平成28年4月に「京都市わかもの就職支援センター」をキャンパスプラザ京都に開設し、市内中小企業の魅力発信や学生等の求職者との交流・マッチング支援、若手従業員の定着支援などを行っている。
- ② また、平成26年度から「グローバル人財育成事業」を実施し、京都の企業と連携したPBLによる学びの機会を提供するとともに、留学生を含む学生と京都の企業が互いを知る機会を創出している。
- ③ さらに、大学コンソーシアム京都のインターンシップ事業については、短期実践型コースのカリキュラム改善や単位認定の制度整備、長期企画型コースの特色の明確化などにより、質の高い実習の提供に努めている。
- ④ この他、平成27年4月に「京都市ソーシャルイノベーション研究所」を開設し、社会的課題を解決するためのビジネスアイデア学習プログラムや社会的企業の支援などを実施している。
- ⑤ 地方創生の観点から、全国の自治体において、大学卒業後の地元企業への定着を目指す取組が積極的に行われており、京都においても、特に中小企業を中心に雇用のミスマッチが深刻である。こうしたことを踏まえ、学生の職業観や自立意識を育むとともに、京都企業の魅力を京都で学ぶ学生に知ってもらうための取組を一層推進していく必要がある。

## 柱4 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

### まちの将来像：産学公地域連携による活力にあふれたまち

大学が有する人財や研究開発力・研究成果が、京都の多様な産業や地域コミュニティと協働・融合し、伝統産業や伝統文化など京都の誇る個性を継承・発展させるとともに、世界で最先端の産業や文化を創造し続け、社会問題の解決や地域活性化などの課題に対して、常に日本で最先端の取組モデルを展開し続けるまちを目指します。

#### リーディング施策

- (1)「京都発イノベーション」大学との連携によるものづくり技術の継承・発展 京都市
- (2)「飛び出す大学」大学と地域の連携・コーディネートの一環の充実 京都市 コンソーシアム

#### 推進施策

- (1) 産学公の連携による京都経済の活性化 京都市
- (2) 教育・研究分野の新展開を目指す大学との連携強化 京都市
- (3) 地学公の連携による地域課題への対応 京都市 コンソーシアム
- (4) 小中高大(院)連携の推進 京都市 コンソーシアム
- (5) 大学をいかした芸術文化環境の向上 京都市 コンソーシアム

### 平成28年度までの進捗状況及び今後の展望

施策数	27年度までに実施済みまたは着手済み	28年度実施または着手	検討中（未着手）
22	21	1※	0

※ 4-1(2)-エ「京都の大学に設置された社会連携センター、地域連携センターなどのネットワークづくり、大学と地域とを繋ぐマッチング・コーディネートの一環の仕組みづくり」：「学まち連携大学」促進事業（大学・地域連携サミット「学×地リンク」）

- ① 産学公連携については、「京都市成長産業創造センター」において、大学の最先端の研究成果を着実に事業化につなげる研究プロジェクトを推進するとともに、平成27年4月に「京都市ライフイノベーション創出支援センター」を設置するなど、新たな成長分野における産業振興に向けた取組を推進した。
- ② 地学連携については、学まちコラボ事業や各区のまちづくり支援事業におけるゼミ単位・グループ単位の活動支援に加え、平成28年度に「学まち連携大学」促進事業を創設し、大学が組織を挙げて地域と連携した教育プログラムを開発・実施する取組を支援するとともに、大学・学生と地域の連携事例を広く発信し、地域連携活動に携わる大学・学生や地域団体等が交流する機会として「大学・地域連携サミット（学×知リンク）」を開催した。
- ③ また、平成28年度に「大学の知を活かした多角的な市政研究事業」を創設し、複数のユニットからなる研究グループを公募により選定し、京都市が指定するテーマについて多角的な観点から研究を行っている（28年度・29年度テーマ：文化を活かした京都の活性化）。
- ④ この他、規模に応じたきめ細かいMICE助成金制度の充実により京都での国内外コンベンション開催を支援している。また、生涯学習事業「京カレッジ」について、平成29年度から特に市民のニーズが高い「京都学講座」の充実を図ることとしている。
- ⑤ 産学公連携については、今後とも、引き続き、大学、経済界、産業支援機関等と連携し、オール京都体制でイノベーションの推進に取り組むとともに、大学が有する研究成果や知的ノウハウを生かし、京都の伝統的な産業から最先端の高度な研究開発まで、幅広くものづくり技術・文化を継承し、発展させていく必要がある。
- ⑥ 地学連携については、京都のまちづくり、まちの活性化につながる大学・学生と地域との連携活動が益々充実・発展するよう、引き続き、大学や学生による取組を支援するとともに、こうした取組の成果の共有や情報発信にも取り組んでいく。また、文化庁の京都への全面的な移転の決定を受け、大学の知や学生の力を活かし、文化で京都を、日本を元気にする取組を推進していくことが求められる。



## 柱5 学生が持つエネルギーをいかした京都力の強化

### まちの将来像：学生が主体的に活動し、輝くまち

このまちに住み、集う学生の主体的な活動を支援する意識や仕組みが充実し、学生の成長を地域ぐるみで応援するまちを目指します。また、その活動が自己実現にとどまらず、未来の京都づくりにつながる人財となって、力強いエネルギーやチャレンジ精神が地域の活性化や課題解決に寄与するまちを目指します。

### リーディング施策

- (1)「一人一人が輝く」学生の主体的活動の促進 京都市 コンソーシアム

### 推進施策

- (1) 学生の活動を促進する仕組みの充実 京都市  
(2) テーマごとの学生の活動の促進 京都市

### 平成28年度までの進捗状況及び今後の展望

施策数	27年度までに実施済みまたは着手済み	28年度実施または着手	検討中（未着手）
7	7	0	0

- ① 京都学生祭典については、毎年10月に岡崎プロムナードで行う本祭に加え、市内各地でのイベントの開催など、通年での地域交流活動を更に充実している。
- ② 京都国際学生映画祭については、平成28年度から作品募集に当たり動画共有サイトを活用した結果、応募作品数が大幅に増加し、世界各国から500本以上の作品が集まった。
- ③ また、輝く学生応援プロジェクトは、京都のまちの活性化や社会貢献に取り組む学生たちの活動を総合的にサポートしており、従来の学生団体中心の支援に加え、平成26年度から学生のボランティア活動への参加をコーディネートするプログラムを実施し、社会貢献活動に関心がある学生の多様なニーズに応え、学生の学びと成長につながるきめ細かなサポートを行っている。
- ④ この他、市の審議会の公募委員の募集や各種計画の意見募集への応募、自治会への参画など、市政や地域社会との関わりを促すための啓発を積極的に行っている。
- ⑤ 引き続き、大学間や学生間の交流を充実させ、学生のまち京都ならではの学生の主体的な活動を促進するとともに、さまざまな学生活動が地域で認知されることを通じ、地域ぐるみで学生の成長を応援する意識の醸成を図っていく。

## 柱6 プロモーション戦略の強化

### 方針:「大学のまち京都・学生のまち京都」の効果的な発信

小学校・中学校・高校の児童・生徒や教員, 保護者, そして市民など, また, 海外の高校生・大学生・研究者も含め, 様々な主体に対して, まちの魅力と多様な大学集積を効果的にプロモーションし, 日本はもちろん, 世界中に「大学のまち京都・学生のまち京都」を発信します。

#### リーディング施策

(1)「京都の大学へ行こう！」学生の力を活用した国内外への情報発信 京都市 コンソーシアム

(2)「大学のまち京都・学生のまち京都」PR戦略の構築 京都市 コンソーシアム

#### 推進施策

(1)「大学のまち京都・学生のまち京都」の中学生・高校生などへの発信 京都市 コンソーシアム

(2) 現役・OBの学生・留学生などによる京都生活の発信 京都市 コンソーシアム

(3) 大学・市民向け広報の充実 京都市 コンソーシアム

#### 平成28年度までの進捗状況及び今後の展望

施策数	27年度までに実施済みまたは着手済み	28年度実施または着手	検討中 (未着手)
11	11	0	0

- ① 学生の力を活用した情報発信としては, 平成26年度から, 京都を訪れる修学旅行生等に対し, 京都の現役大学生が観光地や大学キャンパスなどを一緒に街歩きし, 京都の魅力を直接紹介する「京都B&Sプログラム」を実施している。
- ② さらに, 平成27年度には「京都学生広報部」を創設し, 京都で学ぶ大学生が, ウェブサイト「コトカレ」やSNSを通じ, 学生生活を送る中で実感する「大学のまち・学生のまち」京都の魅力を学生目線で全国の中高生に発信している。
- ③ また, 平成27年度に, 京都で学ぶ現役留学生で構成する「留学生PRチーム」を設置し, 各々の出身国における日本留学関連の情報を収集するとともに, 京都で学ぶ魅力を外国人留学生の視点から情報発信している。
- ④ プラン前半期においては, 京都で学ぶ学生や留学生自身が, 京都での学生生活の魅力を発信する仕組みを構築した。18歳人口の更なる減少や大学間の学生獲得競争の激化の中, 特色化による魅力の向上に取り組む各大学を後押しするためにも, こうした取組の重要性がますます高まってくる。引き続き, 京都で学生生活を送る魅力を全国の中高生や保護者といったターゲットに効果的に届けるための手法や仕掛けについて創意工夫し, 「大学のまち・学生のまち」京都の魅力を一層強力に発信していく必要がある。